

〈第三条〉

『註釈版聖典』833頁

一 善人ぜんにんなほもつて往生おうじようをとぐ。いはんや悪人あくにんをや。

しかるを世よのひとつねにいはく、「悪人あくにんなほ往生おうじようす。いかにいはんや善人ぜんにんをや」。この条じよう、一旦いつたんそのいはれあるに似にたれども、本願ほんがん他力たうりきの意趣いしゆにそむけり。そのゆゑは、自力じりき作善さくぜんのひとと、ひとへに他力たうりきをたのむところかけたるあひだ、弥陀みだの本願ほんがんにあらず。しかれども、自力じりきのころをひるがへして、他力たうりきをたのみたてまつれば、真実報土しんじつほうどの往生おうじようをとぐるなり。煩惱具足ぼんのうぐそくのわれらは、いづれの行ぎようにても生死しやうじをはなるることあるべからざるを、あはれみたまひて願がんをおこしたまふ本意ほんい、悪人成仏あくにんじやうぶつのためなれば、他力たうりきをたのみたてまつる悪人あくにん、もつとも往生おうじようの正因しやういんなり。

よつて善人ぜんにんだにこそ往生おうじようすれ、まして悪人あくにんはと、仰せ候おほそつらひき。

【現代語訳】

『現代語版聖典（歎異抄）』8頁

善人ぜんにんでさえ浄土じやうどに往生おうじようすることができのです。まして悪人あくにんはいうまでもありません。

ところが世間の人は普通、「悪人あくにんでさえ往生おうじようするのだから、まして善人ぜんにんはいうまでもない」といいます。これは一応もつともなようですが、本願ほんがん他力たうりきの救いのおこころに反さかしています。なぜなら、自力じりきで修めた善によつて往生おうじようしようとする人は、ひとすじに本願ほんがんのはたらきを信じる心が欠けているから、阿弥陀仏あみだぶつの本願ほんがんにかなっていないのです。しかしそのような人でも、自力じりきにとられた心をあらためて、本願ほんがんのはたらきにおまかせするなら、真実の浄土じやうどに往生おうじようすることができのです。

あらゆる煩惱ぼんのうを身にそなえているわたしどもは、どのような修行によつても迷いの世界をのがれることはできません。阿弥陀仏あみだぶつは、それをあわれに思われて本願ほんがんをおこされたのであり、そのおこころはわたしどものような悪人を救いとして仏にするためなのです。ですから、この本願ほんがんのはたらきにおまかせする悪人あくにんこそ、まさに浄土じやうどに往生おうじようさせていただく因いんを持つものなのです。

それで、善人ぜんにんでさえも往生おうじようするのだから、まして悪人あくにんはいうまでもないと、聖人しようにんは仰せになりました。